

実践事例報告

小学校での消費者教育授業事例

愛媛県小学校 教諭

鼻崎 吉則

令和3年度 消費者教育フェスタ in 愛媛

小学校での消費者教育授業事例



2022年1月19日(水)
松山市立椿小学校 鼻崎 吉則



鼻崎：こんにちは。松山市立椿小学校の鼻崎吉則と申します。

私は、新卒のころから教育関係のキャリアをいろいろと挑戦しながら、現在小学校の教員をしております。

まず、最初の問いかけですが、皆さんは、買い物をするとき、どのような視点で商品を選ばれますでしょうか。

基本は、お金を支払って商品やサービスを受け取る。私も子どもたちに指導をするにあたって、まずは、この前提をしっかりと身に付けさせたい、理解させたいと思ってスタートしたのですが、授業を実施し、これだけなのかなと思うようになりました。

今回、お話をさせていただく機会をいただいておりますが、私自身は、消費者教育の専門というわけでもありませんので、言ってみれば、私自身の指導をしながらの気づきや発見のプロセスだと思って聞いていただければ幸いです。

全体の流れは、このような形です。ある程度、教科ごとのまとめりでご紹介したいと思います。

- 1 家庭科での実践
- 2 総合的な学習の時間での実践
- 3 合科的(家庭科・総合的な学習の時間)実践
- 4 まとめ

主な実践は、一昨年度の5年生、まだちょっとコロナの影響を受ける前の子たちなので、マスクを付けていない姿が出てくるかなと思います。とても前向きで元気な子たちです。

では、まず家庭科での実践からご紹介します。行政の方からのご説明にもありましたが、学習指導要領が変わりまして、小学校で扱う消費生活等に関連する内容は、このようなものになっております。売買契約の基礎にあたる場所も新設内容としてありました。

家庭科

「じょうずに使おうお金と物」

新学習指導要領(平成29年告示)

C 消費生活・環境

(1) 物や金銭の使い方と買い物

ア(ア) **買い物の仕組みや消費者の役割**、物や金銭の大切さ、
計画的な使い方 **【新設】 売買契約の基礎**

(イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理

イ 身近な物の選び方、買い方の工夫

私の小学校が、一昨年度は、家庭科の研究指定校にもなっておりまして、その中心となる題材として、「じょうずに使おう お金と物」を位置付けて5年生で実践をしてみました。

まず、子どもたち自身に自分はどんなとき、どんな基準で買い物をするかなという振り返るところから、自分の買い物の傾向に気付いて、題材を貫く「買い物名人になろう」という課題を設定して学習を始めました。

家庭科

「じょうずに使おうお金と物」

題材を貫く課題設定
「買い物名人になろう！」

家庭科

「じょうずに使おうお金と物」

家庭科

「じょうずに使おうお金と物」

買い物名人になるためには、どのようなことに気をつけて食品を選べばよいのだろう。

食品の品質や価格などの情報
目的や条件にあった品物の選び方

「ひめまる」のつくられているゲームについては、私の学校でも使わせていただきました。子どもたちは、非常に楽しみながら金銭管理の在り方や、商品選びの観点というものを体験的に楽しく学ぶことができていました。

おこづかいゲームのあとに、調理実習で実際に使う野菜をどのような視点で選ぶかなというところも、その学習を生かしてさらに行いました。これらの経験を通して、子どもたちは、目的や条件に合った品物の選び方について理解を深めることができたと思います。

消費者教育の体験イメージマップをご覧になられたことがある方もいらっしゃるかなと思いますが、4つの重点領域、発達段階に応じて、どういった力が身に付いていると良いかというイメージを持つのに非常に

役立ちました。

消費者教育の体系イメージマップ

keyWord

物の選び方、買い方 情報の集め方

物や金銭の大切さ、計画的な使い方 選択の大切さ

今回、この単元・題材に関しては、特に生活の管理と契約であったり、情報とメディアに関連するような内容についての理解が深まったと思っています。

生活の管理と契約や情報とメディアに関連する内容に焦点化していきますと、小学生期には、上記2枚目のスライドの赤囲み部分の内容が目的とされています。子どもたちの姿からキーワードをピックアップするとすれば、物の選び方や買い方、物や金銭の大切さ、計画的な使い方、情報の集め方、選択の大切さなどへの理解や気付きがあったと思います。

続いて、同時期に行っていた総合的な学習の時間での実践についてです。

- 1 家庭科での実践
- 2 総合的な学習の時間での実践
- 3 合科的(家庭科・総合的な学習の時間)実践
- 4 まとめ

第5学年

家庭科 「じょうずに使おうお金と物」

総合的な学習の時間 「つながろう！世界と」「もっとながろう！世界と」

消費者教育

SDGs

この「じょうずに使おうお金と物」という消費者教育に関連する内容を、総合的な学習の時間の内容とも関連できないかと思い、展開を工夫していきました。

先ほどの図の部分でいくと、特に消費者市民社会の構築という領域に関するところにリーチできるかなと捉えています。

| 各期の特徴 | 幼児期 | 小学生期 | 中学生期 | 高校生期 | 成人期 | | |
|--------------|---------------------------------|--------------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | | | | | 特に若者 | 成人一般 | 特に高齢者 |
| 重点領域 | 様々な気づきの体験を通じて、意識や行動の方向性を定めていく時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深めていく時期 | 行動の範囲が広がる時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深めていく時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深めていく時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深めていく時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深めていく時期 |
| 消費者がもつ影響力の理解 | 自分がかかわる物に関心を持つ | 消費者の行動が社会や環境に与える影響を学ぶ | 消費者の行動が社会や環境に与える影響を学ぶ | 消費者の行動が社会や環境に与える影響を学ぶ | 消費者の行動が社会や環境に与える影響を学ぶ | 消費者の行動が社会や環境に与える影響を学ぶ | 消費者の行動が社会や環境に与える影響を学ぶ |
| 持続可能な消費の実践 | 身近なものから実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう |
| 消費者の参画・協働 | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう | 自分自身の生活や行動に実践しよう |

実際に行った活動としましては、まず、出会いの1学期については、外国の方との交流を深めることを通して、未知のものとの出会いであったり、いろいろな文化があるということ、コミュニケーションの楽しさ、喜びというものに浸れる期間にしていきました。

総合的な学習の時間

1 「つながろう！世界と」～異文化との出会い・コミュニケーション～

総合的な学習の時間

2 「もっとつながろう！世界と」～世界的な課題との出会い～

その経験を踏まえて2学期になってからは、『世界がもし100人の村だったら』という本をご存じの方もいらっしゃるかと思います。それを基にしたワークショップがありまして、そうしたワークショップをしながら、世界にはいろいろな課題があるんだよというところ、その課題を世界みんなで解決・解消していくために「SDGs」というものがあるんだということに出合いました。

総合的な学習の時間です。アクションにつなげてい

くことというのが非常に大事で、どのようなアクションにつなげていこうかと考えたときに、消費者としての実践という要素に着目してみました。

自分たちにできることは何だろう・・・

エネルギー・資源の節約

消費者としての実践

3Rの実践

食べ残しゼロ

寄付

次のステップとして、「ひめまる」さんが、また当時、新たに「SDGsのカレー買い物ゲーム」という新しいゲームを開発されていたので、さっそく使わせていただきました。

NPO消費者支援グループ ひめまる

◆「SDGsカレー買い物ゲーム」のルール◆

買いすぎない！使い切る！食べきる！

じょうずに買い物をしよう！

- ① 班で、4～5人分つこう。
- ② 1000円以内で材料を買おう。カレールーは用意しているよ。
- ③ スタートする時に、肉をどちらか選んで、買おう。
- ④ 買った材料をホワイトボードにはってみよう。
- ⑤ えらんだ理由も考えてみよう。

基本的なルールは、先ほどの「おこづかいゲーム」ともかなり関連していると思うのですが、非常に前のめりになりながら、子どもたちも条件に合わせて買い物の計画を立てていきました。

このゲームを通して、家庭科で培ってきた目的や条件に合った商品・品物の選び方に加えて、世界のためにできることを意識してみるであったり、ほかの人のことを意識するとか、自分の目的以外、世界への意識というところにも目が向けられたように思います。

目的や条件に合った品物の選び方+世界への意識

子どもたちの感想についても、こちらに示してあるとおりでして、「人にもやさしい、世界にもやさしい」という言葉とか、「みんなが」とか「世界の人たちのために」というように、この1時間や、この経験だけで

は全てが変わったとは思いませんが、そうした視点を持つきっかけになったと思います。

キーワードのピックアップとした消費者の行動が、環境・経済・社会に与える影響への気付きとか、持続可能な消費の実践に向けた意識の芽生えというところだったかなと思います。

続いて、これら家庭科と総合的な学習の時間での実践の効果的な捉え、もっと言うと、学級活動とも一体化していたかなと思うのですが。要は、私の好きなようにやった領域ですけれども。

では、地球全体に目を向けてということで、「地球にやさしい」商品という観点で、ちょっといろいろな身近にあるもの、家にあるものとか、お店にあるものを探してみようという取り組みをしてみました。

その当時は、海洋プラスチックごみの問題が非常に、特に注目されていた時期でして、子どもたちの意識として、「プラスチックごみを減らすための商品はたくさんあるね」とか、「正直使いにくいな」とか、そして、チョコレートとか、コーヒーとか、「フェアトレードの商品というのは、そんなに多くはないね」とか、そういうことを言っていました。

では、実際どうかなって、その当時の空気感として、プラスチックごみは絶対なくそうと、代替としてペーパーストローというものを使っていこうという気運があって、子どもたちに聞いたら、「ペーパーストローは、ありかなしか？」って言ったら、「あり」が圧倒的だったのです。

29人中24人が「ペーパーストローが絶対いいと思います」、では、使ってみようということで、給食のときにペーパーストローを使って飲んでみたり、そういう経験をしたりしながら実際に使ってみて、その特徴、いいところ、いまいちなところとか、疑問に思うところを整理し合いながら、最終的に、これはどちらが正しいとか、間違っているとかそういうことではなくて、いろいろなそれぞれのいい面、メリット・デメリットとか、これから考えていかなければいけないところへの気付きのきっかけとして時間を使わせてもらいました。

子どもたちの意識として、最終的には、24対5だったのが18対11となり、使ってみるとどうか、というところになると変わってきました。これらを、先ほどのイメージ図のところからのキーワードをピックアップするならば、「主体的な吟味・評価」とか、「批判的思考力」を養っていく素地ともつながっていくかなとも考えます。

もう1つ、大きな出会いが、コーヒーのダイレクトトレードを行っている方との出会いです。こちらは今井さんという方で、愛媛県の大洲市で、コーヒーのダイレクトトレードのお店をされています。この方は、JICAの青年海外協力隊にも参加していて、当時、新卒

で学校教育関係の活動をされていました。

家庭科・総合的な学習の時間

3 コーヒーのダイレクトトレードを行う今井さんとの出会い



今井 英里さん
カトラッチャ珈琲焙煎所 オーナー
青年海外協力隊(ホンジュラス)OG

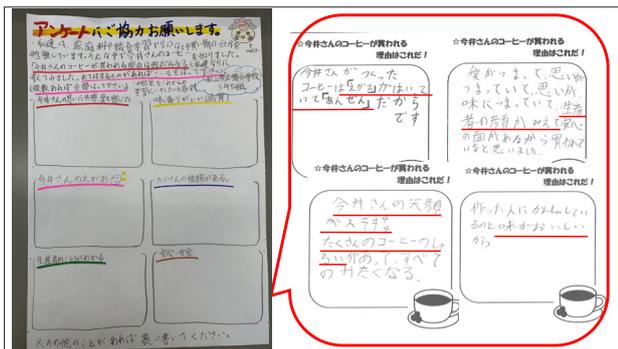


小学校の先生になることを志望されていたのですが、現地の方との出会いであったり、また現地の抱える課題、そして、何よりコーヒーに惚れ込んだというところ、そういった出会いの中からこの道を選ばれて、すてきなお店を今、経営されています。

コーヒー豆の商品名が、生産者さんのお名前です。コーヒーに必ずこのような、裏表の名刺を付けられて、その思いを届けたいという形で商品を販売されています。

今井さんの売られているコーヒーですけれども、すてきな思いを持ってお仕事をされているので、ぜひ子どもたちにも紹介したいなと思ひまして、子どもたちに飲み比べ体験とか、飲めない子は香りだけちょっと嗅いでみたりしながら、そうしたら、凄く子どもたちは感動していました。

そういった経験をした上で、「今井さんのコーヒーが買われる理由って何だと思う？」と問いかけてみると、このような赤い枠で囲んである結果を子どもたちは出してきました。



今井さんのコーヒーが買われる理由はこちら!

- 今井さんがつくったコーヒーは自分たちが飲んで「美味しいから」です。
- 今井さんがつくったコーヒーは自分たちが飲んで「美味しいから」です。
- 今井さんの笑顔がすてきです。
- 自分たちが飲みたいコーヒーの味がある。

「いろいろな種類がある」とか、「美味しい」とか、そういうところはきっと出るだろうと思っていたのですが、思いのほか、「思いがたくさん詰まっている」とか、「笑顔」とか、「今井さんの笑顔がすてき」とか、商品を飛び越えて売っている方の魅力とか、そういうところに反応している子どもたちが非常に多くて、これは面白いなと思って、ちょっと踏み込んでみることにしました。

子どもたちが出してきた予想の要素からアンケート

をつくってみまして、実際にお店で商品を買われる方に、どういう理由で商品を買っているのかというところに答えていただくようにしてみました。1カ月程度、置かせていただきました。

結果がこちらです。「味や香りがいい」「品質について」というところはもちろん多いのですが、「思いに共感・愛を感じた」とか、「笑顔がすてき」とか、「つくっている方が分かる」、これは単純に安心・安全とか、それだけではなくて、つくっている人の思いも分かるということも含まれているのではないかなと思うのですけれども、非常に、「なるほど」と私自身も思うような結果となりました。



買う ⇔ 人・もの への共感

そんな子どもたちに、実際、今井さんからビデオメッセージをいただいたので、1分程度ですが、ご覧になってみてください。

(今井さんからのビデオメッセージ)

今井：椿小学校の5年生の皆さん、こんにちは。はじめまして。カトラッチャ珈琲焙煎所のオーナーの今井英里と申します。

今日は、鼻崎先生にコーヒーを買いに来ていただきました。ありがとうございます。

皆さんは、買い物をするときどんなことを考えながら買い物をしていますか。自分が欲しいものだったり、食べたいものだったり、いろいろな気持ちで買っていると思いますが、「買う」という動作の中にもたくさんの意味があって、私が思うに、「買う」というのは「共感」です。

その物に対する共感だったり、つくり手さんに対する共感だったり、販売される店員さんに対する共感だったりとか、そういうところが非常に大事になると思います。

皆さんも、ぜひ買い物をするときには、物の背景、人の背景を大事に考えながら買い物をしてもらえたらと思います。私も愛媛県の大洲市の五郎という脇川の川のほとりでコーヒー豆を販売しておりますので、近くに来られましたら、ぜひ遊びに来てください。お待ち

ちしています。

鼻崎：というようなメッセージをいただきまして、合点がきました。買うということは、単にそのサービスを受け取るための行為だけでなく、人とか物への共感の表し方の1つでもあるんだなというところですよ。

このように、なぜ買われるかの理由を予想して、お客さんにアンケートを実際に答えていただき、それを考察するというプロセスの中で、物事の背景に目を向けようとするとか、かかわる人の存在というのはもの凄く重要なんだということ、また自分の行動が世界の誰か、大きかったり、小さかったり、いろいろ規模感はあると思いますけれども、そこに影響を与えられるという実感や希望ということを子どもたちは感じ取っていました。

家庭科・総合的な学習の時間

3 コーヒーのダイレクトトレードを行う今井さんとの関わり

購入理由を予想

↓

お客さんにアンケート

↓

結果からの考察



○背景に目を向けようとする人や関わる「人」の重要性

○自分の行動が世界(の誰か)に影響を与えられるという実感・希望

今井さんに何かお返ししたいねということで、子どもたちがドリップバックのパッケージの絵を一人1枚描かせていただきました。ホンジュラスには、このドリップバックの文化がないようで、現地の方が知ったら、ぜひそれが欲しいということで、この中に、今井さんが商品を詰めていきますねということで、託しました。

家庭科・総合的な学習の時間

3 コーヒーのダイレクトトレードを行う今井さんとの関わり



ドリップコーヒーのパッケージイラスト 現地の人に届けよう!

ちょうど、これを描いたところにコロナの影響があって、まだ現地には届いていないのですが、その日がいつか来ることを楽しみにしています。

今、出している表の下の部分が主に家庭科の時間に培っていたところで、上の部分がこれまでの総合に関連するようなどころで培われたところを捉えています。

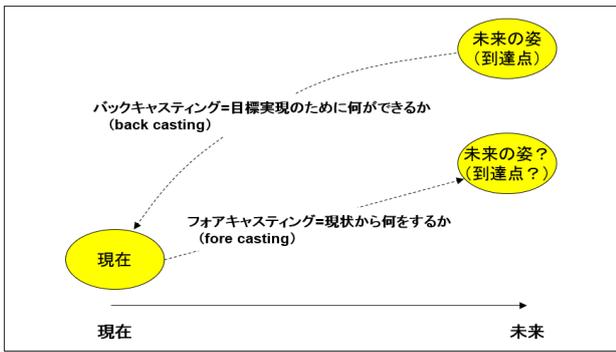


市民社会の構築というところで、小学生期においては、こういうところを達成すると。ここだけ見ても、実は育たない部分があるのではないかと思っていて、特に成人期になると、そうした消費が、いろいろな環境・経済・社会に与える影響を考える習慣が身に付いた状態になっている。まず、ここの達成イメージというところを持った上で、小学校のうちは何をするかという、ある程度、ゴールイメージからの逆算で捉えるというのが凄く大事ではないかと思いました。小学生のころはこれだけやっておこうという積み重ねでは、なかなか達成し切れないかもしれないと思います。

そして、何より今回、消費が持つ影響力は、凄く大きいと私自身が気づきました。ただ対価としてという形ではなくて、人への支持の表し方とか、そういうことでもあると思いました。

| | 幼児期 | 小学生期 | 中学生期 | 高校生期 | 成人期 |
|-------------|--|---|---|---|---|
| 各期の特徴 | 様々な経験を通して、世界や身の周りの物事に好奇心をもち、それを取り入れる時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深め、消費者としての意識の形成が促される時期 | 行動の範囲が広がり、様々な経験を通して、消費者としての意識の形成が促される時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深め、消費者としての意識の形成が促される時期 | 主体的な行動、社会や環境への関心を深め、消費者としての意識の形成が促される時期 |
| 重点領域 | | | | | |
| 消費がもつ影響力の理解 | 自分や身近な人への影響を理解しよう | 消費者の行動が環境や社会に与える影響を理解しよう | 消費者の行動が環境や社会に与える影響を理解しよう | 消費者の行動が環境や社会に与える影響を理解しよう | 消費者の行動が環境や社会に与える影響を理解しよう |
| 持続可能な消費の実践 | 身の回りのものを大切にしよう | 身の回りのものを大切にしよう | 身の回りのものを大切にしよう | 身の回りのものを大切にしよう | 身の回りのものを大切にしよう |
| 消費者の参画・協働 | 協力することの大切さを理解しよう | 協力することの大切さを理解しよう | 協力することの大切さを理解しよう | 協力することの大切さを理解しよう | 協力することの大切さを理解しよう |

上記の表で出したように、積み重ね式にちょっとずつ達成していくというよりは、大きな目標を描いて、そこに至るにはどうすればよいかという発想です。これは何事にも通じるかと思うのですが、特に私は小学校の教育を預かるにあたって、この発想は忘れたくないと思っています。

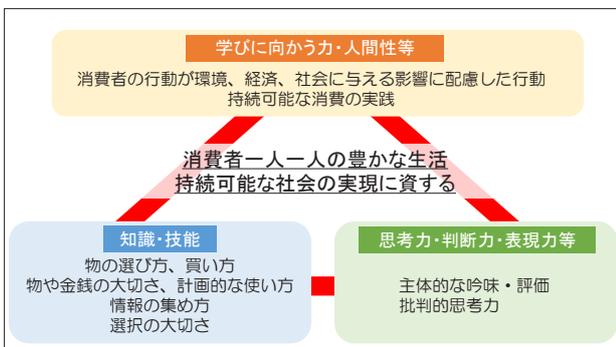


まとめです。ここまで出していたキーワードを学習指導要領の項目と照らし合わせると、類似してくると思います。

-
- 1 家庭科での実践
 - 2 総合的な学習の時間での実践
 - 3 合科的(家庭科・総合的な学習の時間)実践
 - 4 まとめ

今回の改訂では、「学びに向かう力・人間性等」というところの重要さが書かれておまして、そういう意味では、育てたい姿であったり、実現したい状態というところをしっかりと見据えていくことが大事だと思っています。

その見据える先には、消費者一人ひとりの豊かな生活であったり、持続可能な社会の実現に資する。そんな姿に子どもたちが、やがて未来の大人となって活躍することを願いながら、実現のための「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」も高めていきたいと考えます。



最後、私も今回発表をさせていただくにあたって、いろいろな資料やサイト等も参考にさせていただきましたが、すてきだなと思った表現があります。

それは「買い物は、お金の投票だよ」という言葉です。社会的な影響や、その背景について思いを馳せて何を重視して選択するのかを考えてみる。私たちの消費行動は、社会にも大きな影響を与える原動力にもな

る。この実感をぜひ子どもたちにも感じ取れるような指導というものを、日々少しずつ寛容できるように積み重ねていきたいと思っております。

買い物＝「お金の投票」

社会的な影響やその背景について思いを馳せ、何を重視して選択するのか考えてみる。

私たちの消費行動は、社会に大きな影響を与える原動力にもなる！

私のほうからは以上です。ご清聴ありがとうございました。